道徳科学習指導案

令和２年１月２９日（水）５限
第１学年　B組　１９名（男子９名　女子１０名）
指　導　者　　T1　藤井　　暁
T2　藤田　純江

1　主題名　　D（２２）【よりよく生きる喜び】

2　資料名　　『銀色のシャープペンシル』（新しい道徳１　東京書籍）

3　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

日常生活を送る中で、人は時として自分の「弱さ」に負け、自分本位な行動を取ってしまうことがある。それと同時に自分のそうした弱さに気づき、それを克服しようとする「強さ」も併せ持つ。この二面性の間で葛藤し、自らの弱さを受け止め、人として恥じない誇りのある生き方を選ぶことが大切である。生徒が、この葛藤を自分のこととして受け止め、人として自分に恥じない生き方をしようとする心情を育てたい。

（２）生徒について

この学年は自分の弱さに向き合い、恥じない生き方を選ぶことができる生徒もいる。だが、自分に都合が悪いことに対しては、目をそらそうとする生徒や、ほかの生徒の失敗を指摘し、一方的に攻める生徒、自分の行いを正当化し、過ちを正そうとしない生徒など、自分や他者の心の弱さに向き合えない生徒が多く、自分の主張を通そうと口論になり、生徒同士のトラブルも起こっている。

そこで生徒には、自分の心の弱さに素直に向き合った上で、恥じない生き方を選ぶことができるよう、また、他者の心の弱さに向き合いそれを理解したうえで、良い方向へ導いてあげられるよう、自分理解と他者理解を深めることができるよう指導したい。

（３）資料について

主人公は，掃除中にごみの中から銀色のシャープペンシルを見つけ、自分のものにしてしまう。それを授業中に使っていると、本当の持ち主である友人の卓也に見つかってしまう。とっさに主人公は自分の物だと嘘をつき、あとでこっそり教室のロッカーに返しておく。しかし、帰宅しても気持ちは晴れない。そこへ卓也から電話が入る。主人公は、拓也が文句を言うために電話をしてきたと考えたが、卓也はシャープペンシルが見つかったこと、疑って申し訳なかったことを話す。謝る拓也に主人公の心が揺れ動くという内容である。

資料から、人間は、弱いところもあるがそのままでは倒れない強いところもある事に気づかせ、そのことを自分と他者に当てはめることができるよう指導したい。

（４）指導について

前もって、本文の範読を行い、範読後、感想を１行程度で書かせる。生徒の多くは、「悪い事をしたら、必ず謝らないといけない。」と言ったような感想を書くと予想される。この全員の感想を１枚のプリントにまとめ、本時の導入に使う。生徒は、正しい行いをしなければならないという知識がある反面、実際は、自分に弱い心があるということ意識していないところもある。まずは、自分にも主人公のような弱い心がある事を捉えさせた上で、嘘を隠すと自分の心にしこりが残ることも合わせて捉えさせ、どのような気持ちが主人公の背中を押したかを班で話し合わせる。その中で、弱い心を克服し、正しい行動がとれる心情を育てたい。また、自分だけでなく、他者にも弱い心がある事を意識させるために、主人公ではなく、周りの人物からの視点で捉えることで、他者と関わる時に何が大切であるかを考えさせ、いじめの防止にもつなげていきたい。

4　本時のねらい

人のシャープペンシルを自分のものにしたことを言い出せず、自分のことを正当化しようとした主人公の物語を通して、人は「弱さ・醜さ」を持つとともに「気高い心」も同時に合わせ持つことに気づき、自分の弱さを認め、気高い心を選択できる態度を育てる。

5　本時の展開

※前日に本文を朗読し、聴き終わった後に感想を書かせておく。

	生徒の学習活動 ○発問　●補助発問　◎主発問　・予想される生徒の反応	・留意点，T2の動き　※手立て
導入	・本文を要約したパワーポイントを見て本文を思い出す（V） ・前日に書いた感想をまとめたプリントを見る	・場面絵を使って簡潔にまとめる ・多かった意見を紹介する
展開	・めあてを確認する めあて：ぼくの心の変化ついて考えよう（S）	
	展開１『ぼくの心の変化を考える』 ○ぼくの行いは、周りの生徒にも卓也にもばれていない。ぼくは黙っていることはなぜいけないのか。（口頭） ・ダメなことをしたら謝らなあかん。 ・正しいことをしないといけない。	（T2）名簿を使って生徒の学習状況を評価する
	○なるほど、じゃあこれからずっと正しい行いをし続けられる自信があるか、自信がないかどちらかに○をして。（ワークシート） ・自信がある、自信がない、のどちらかに挙手をする。 ・自信がある（もしくはない）の理由を発表する。 ・自信がある→正しいことはしないといけないから。 ・自信がない→しようとするけど、ずっとできるかと言うと無理かも。 （自信がない方に傾くと予想される）	・誰の心にも弱い部分がある事を捉えさせる （T2）T1と共に、班で出た意見を拾い上げ、全体で共有する ※（T2）班の話し合いがまとまっていかない場合は、整理を手助けする
	●正しい行いをする自信がない人が多いけど、今回のぼくと一緒だね。もう一度聞くけど、ぼくの行動は誰もやったことを知らないし、シャーペンも返したし、卓也も僕を疑っていない。黙っていても誰も嫌な思いをしない。黙っていたらいけないの。班で話し合って。（口頭）（Ｓｈ）	・人は弱い心を持つが、それに負けてしまうと、心にしこりが残ることを捉えさせる （T2）T1と共に、班で出た意見を拾い上げ、全体で共有する
	・ホワイトボードを持っていき、班で話し合いをする ・黙っていてもいい→誰にも迷惑かけていない。 ・黙っていたらいけない →自分自身が嫌だ。 心にもやもやが残ってしまう。 このままでは、終わりにできない。 （黙っていたらいけない方に傾く予想される）	・ホワイトボードはメモ程度に使うことを伝える
	◎これまでの話を振り返って、「正しい行いをする自信はないけど、黙っているともやもやしてしまう」だよね。主人公のぼくも多分同じ思いをしているね。でもぼくは、最後、卓也の家に行ったよね。どのような気持ちがぼくの背中を押したんだと思う。自分の意見を書いた後で、班で話し合って。（ワークシート）（Ｓｈ）	・人は弱い心を克服し、正しい行いをすることが大切である事を捉えさせる
	山場：嘘をつく気持ちに負けたくない。　勇気を持ちたい。　正しい行いをしたい。 卓也にこのまま嘘をつき続けたくない。　もやもやした気持ちを残したくない。	

展開	・班で話し合って、ホワイトボードに意見をまとめる。 ・ホワイトボードを黒板に張りに行く。	・班で議論したうえで、意見をまとめるよう伝える
	展開２『周りの生徒の立場になって考える』 ○じゃあ、話を戻すけど、理科室の授業の時にぼくはなんで素直に謝れなかったのだろう。みんなの話だと、嘘をついてしまっても、正しい行いをすることで心はすっきりするんだよね。（口頭） ・健二が「シャーペンをとった。」と大声で言ったから。 ・周りの目が気になったから。	・周りの生徒からの視点で物語を捉えせる
	○そうか。じゃあ、あの時ぼくが素直に謝ることができる雰囲気を作るためには、日ごろから何が大切だろう。班で話し合って。（口頭）（ｓｈ） ・誰にでも弱い心があるから、それを責めない。 ・言いやすい雰囲気を作れるように、相手を思いやって話をする。 ・相手のよさに目を向け、それを大切にする。	・他者の弱い心を理解し、自分はどう行動したらいいかを考えさせる
終末	・本時の学習を振り返る	・自分の経験を振り返って書くよう促す

ユニバーサルデザイン化された授業の観点：焦点化（Ｓ），視覚化（Ｖ），共有化（Ｓｈ）

６　本授業での重点とされる評価の視点

○ぼくを自分のことに置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか
○自分の意見を他者と議論している中で、道徳的価値の理解を深めようとしているか
○発問に対して、広い視野から多面的・多角的に考えることができたか

銀色のシャープペンシル（みんなの感想）

・人のものをとるのはよくないと思う。友達のものを使ったり、借りるのと勝手に取るのは違うと思った。素直に謝るべきだ。

・（主人公の）ぼくは、卓也のシャープペンシルを取ったといわれて腹が立っている。卓也からの電話の時に謝ったらいいと思った。

・（主人公の）ぼくは、落ちていたシャープペンシルを自分のものにしようとしていたのに、ぼくがどうして泥棒と言われなきゃいけないのか不思議に思っているところがおかしいなと思った。

・主人公のぼくのように、自分の悪いことを人のせいにするのは、ダメだと思った。そして、うそをつかずに、本当のことを言うのが大切だと思った。

・ぼくがうそをつくのが悪いし、人のものをとるのもだめだと思う。

・卓也や健二にシャープをとったのかと言われなにも言えなかった。電話の時も何も言えなかった。でも卓也に本当のことを言おうと勇気を出して言いに行ったので良かった。

・ぼくは初めはうそをついてしまったけれど、最後にはあやまろうという気持ちになれて、卓也の家に向かって歩き出したので、自分の行ったことを反省し、素直になったと思う。

・ついついうそをついてこういうことになるときもあるけど、やっぱりうそをつくのはだめだなと思った。

・ぼくは卓也に謝りに行ったのだと思った。

・ぼくは最初は、知らんぷりをしたけど、最後はあやまりにいくことができたので、いい人だと思った。

・自分のずるさをごまかし続けていたら、後からもごまかさなきゃだめだから、うそをつくのはだめだと分かりました。

・ぼくは、銀色のシャープペンシルをとったことについて、健二と卓也をうらんでいたのは少しわかる。

・シャープペンシルが卓也のものじゃないと分かったとき、電話で謝ったのがとてもよかった。

・ぼくの気持ちがだんだん変化していくのは、すごいと思った。そのままかくしてしまおうとする人もいそうだから。

・自分が悪いのに、人の悪いところを見つけてごまかすことは、みんなしていることかもしれないけど、自分は最初のほうに返せるようになりたいと思った。

・ぼくは、初め、うそをついて皆に「とったのではない」とごまかそうとしていた。しかし、最後は自分の心の弱さを乗り越えて、卓也に謝ろうと家に向かって歩き出していた。だから、心の弱さを乗り越えてすごいと思った。

・私がもしこのような場面にあった場合、私も「ぼく」のようにしてしまいそうだと思いました。でも「ぼく」のように、勝手に返さず、手渡しで返したほうがよかったと思いました。「ぼく」が直接あやまりにいったのはよかったと思いました。

「銀色のシャープペンシル」	1年　　組（　　　）番 名前

（1）　自信がある　・　自信がない

（2）

話し合いで出たことに似たような経験がこれまでに無かったか思い出しながら、振り返ってみよう。

7　板書計画

銀色のシャープペンシル

めあて：ぼくの心の変化について考えよう

（1）　これからずっと正しい行いをし続けられる
自信があるか。

自信がある　○人　　　　　自信がない　○人

理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（2）どのような気持ちがぼくの背中を押したのか

ホワイトボード　　ホワイトボード

ホワイトボード　　ホワイトボード

○　素直に謝ることができる雰囲気を作るために

・
・
・